

臨床研究
「3D-CTによる肺動静脈破格(variants)の検討」
について

筑波大学附属病院呼吸器外科では、標題の臨床研究を実施しております。
本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者まで
ご連絡をお願いいたします。
本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の概要

背景:呼吸器外科手術において、肺動脈及び肺静脈の処理は手術の要であり、致死的な大出血を起こす危険性をも秘めます。肺動脈及び肺静脈の分岐には様々な破格(variants)があり、特に、左上下肺静脈共通幹や部分肺静脈還流異常等のような稀な破格の場合は、手術に際して極めて大きな合併症を引き起こす危険があります。近年、低侵襲手術の希求により開胸手術から胸腔鏡手術へと術式が移行しつつあります。胸腔鏡手術の利点の一つに拡大視が挙げられる一方で、肺血管の全体像の把握が疎かになる可能性も指摘されています。そのため、術前に肺血管の解剖を正確に把握することは極めて重要です。

目的:3D-CTを用いて、肺動脈及び肺静脈の解剖学的破格(variants)の種類とその頻度を明らかにする。

対象:2009年4月以降に入院され、術前にthin-section造影CTを行い、肺切除術を施行された患者さん

方法:①Retrospective に肺切除術の術前に行われた造影CTを解析する。②Thin-section CTから3D-CT reconstruction softwareであるSynapse Vincentを用いて肺3D画像を再構築し、肺動脈及び肺静脈の分岐様式、分岐異常を解析する。③年齢、性別、既往・併存症、手術所見、術中合併症などを併せて調査する。

② 保有する個人情報の保護

本研究に関して、治療を受ける患者様の個人情報は保護され、人権は擁護されます。この臨床研究に際して得られた診療上の情報や個人情報は守られます。また、

個人を識別する情報をこの臨床研究の報告や発表に使用することはありません。この研究は、筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会で審査され、個人情報及び人権が守られることが確認された研究です。ご協力によって得られて結果は、個人情報が保護された形で、学会や学術雑誌、データベース上などで公に公表されることがあります。

③ 本研究に対するお問い合わせ先

本研究について何かお知りになりたいことや、疑問な点がありましたら、担当医師に遠慮なくおたずねください。

本試験の責任医師: 菊池 慎二(呼吸器外科診療グループ・病院講師)

連絡先: 筑波大学附属病院

住所: 〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

電話: 029-853-3097(医局、平日9:00-17:00)

029-853-3110(上記以外の時間帯)

※担当医師または呼吸器外科の医師を呼び出してください。